

# 多発性硬化症 検査を簡単に

## 阪大がキット開発

や視力低下などの症状が出る。免疫細胞のバランスが崩れて炎症が起こり、神経の電気信号の通り道である軸索を覆う「髄鞘(ずいしょう)」が壊れる。根本治療法は今のところない。

大阪大学の熊ノ郷淳教授と中辻裕司講師らは神経難病の多発性硬化症を簡単に判別できる手法を開発した。血液中のたんぱく質の量を調べれば数時間で結果が分かる。従来は患者の脊髄(せきすい)液を抜いて検査するため患者負担が大きかった。試薬メーカーと協力して実用化を目指す。

多発性硬化症は20〜40代女性に多い自己免疫疾患。手足のしびれ、まひ

研究チームは患者の約3分の1で血液中の「セマフォリン4A」という免疫制御に関係するたんぱく質が増えているのを発見した。このたんぱく質の検査キットを試作して患者の血液を調べたところ数時間で判定できた。まず国内で研究用として2〜3年後をめどに実用化する。

多発性硬化症の患者は日本より欧米が約10倍多く、新手法が世界でも普及すると期待している。